

おのきた

# 尾北校長室から

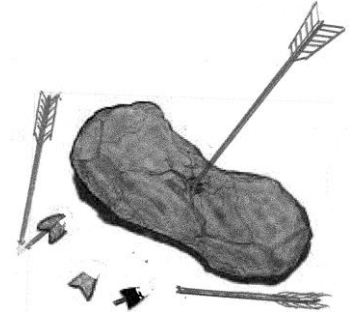
第38号



## 「石に立つ矢」 ～ <sup>こころざし</sup> 志

前号「自己成就的予言」というタイトルでピグマリオン効果を紹介し、根拠のない自分の思い込みでも、無意識に行動することで結果として願いが叶っていく、という話をした。今回はその「自己成就」をめぐる内容について、「できる」という思いをもつことを繰り返し皆さんに促したい。

標題の「石に立つ矢」とは、今から二千年ほど前の中国、李広<sup>りこう</sup>という名の将軍の話である。——弓の達人であった彼は、あるとき、草原の中に虎がうずくまってこちらを窺<sup>うかが</sup>っているのを発見する。そして目の前の虎めがけて矢を放ち、見事に射抜く。ところが近づいてよくよく見ると、なんとただの大きな石だった。ではなぜ矢が刺さったのだろうと不思議に思った彼は、それから何度も何度も矢を放ってみるのだが、二度とその石に矢が刺さることはなかった。



**虎と信じて放った矢は刺さったのに、石と分かってからは刺さらない**——この故事から「石に立つ矢」とは、どんなことでも必死になって行えば必ずできる、ということの例えとして、自分の決めたことを簡単に諦めるものではないことを教える言葉となっている。

### 「虎とみて『石に立つ矢』の ためしあり」

皆さんが何かに取り組む時、ぜひ「石に立つ矢」の信念をもって取り組んでもらいたい。困難そうに見える何かに出会った時、そそくさと引き返すのではなく、少しでいいので立ち止まってみてほしい。そこで皆さんが考え探るのは、できない「理由」の数々ではなく、できるかもしれないと思う「展望」と「方法」でなければならない。目の前にある困難は、逃げると確実に「壁」になる。しかし、逃げずに勇気をもって前に進むと、それは自分の成長の道にもなり夢を叶える「階段」になるものである。



### Nothing is impossible to a determined mind.

(直訳：決心をした精神にとって、何事も不可能なことはない) ⇒意訳「石に矢が立つこともある」

それは**できなかったのか!?** それとも**やらなかったのか!?** どちらだったのだろうか? はじめから諦めて、やろうとしていない人はいないだろうか? 昨日できなかったことでも、今日もできないとは限らないのではないのか。「**昨日の自分**」を**1mmでも超えていく**心構えをもとう。何事も、やってみなくちゃわからない!

幕末、安政の大獄で29歳の生涯を閉じた長州藩士・吉田松陰(1830~1859)は、門下の若者に向けて次の言葉を残している。

**「志をたてて、もって万事の源となす。」**

160年以上も後の私たちが、教えを受けてやってみようか? -----!

